

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第2四半期(2020年7-9月) 調査結果》

1. 調査期間 令和2年9月1日～17日

2. 調査対象 会員40企業に調査票配布（回収企業29 回収率72.5%）

| | 製造 | 建設 | 卸・小売 | サービス |
|------|----|----|------|------|
| 調査対象 | 12 | 9 | 11 | 9 |
| 有効回答 | 12 | 5 | 7 | 5 |

※今期より卸・小売を統合

3. 調査項目 今期(2020.7～9月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

(仕入単価は下落-上昇、販売単価は上昇-下落、従業員は、不足-過剰の割合を差し引いて判断)

※調査項目の販売単価については2019年第1四半期調査より追加して実施。

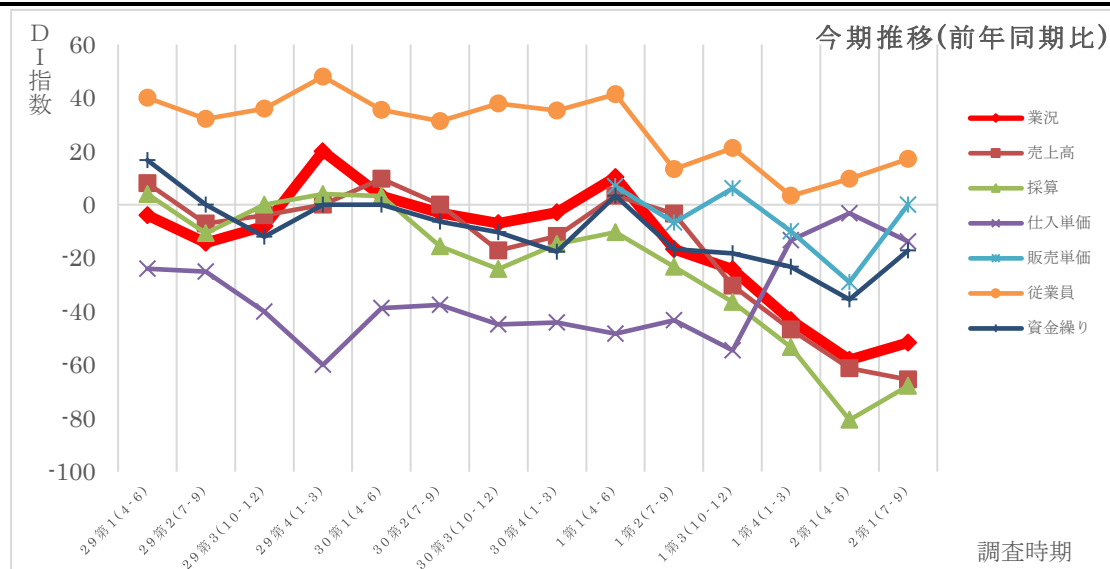
4. 全産業(DI指数分析)

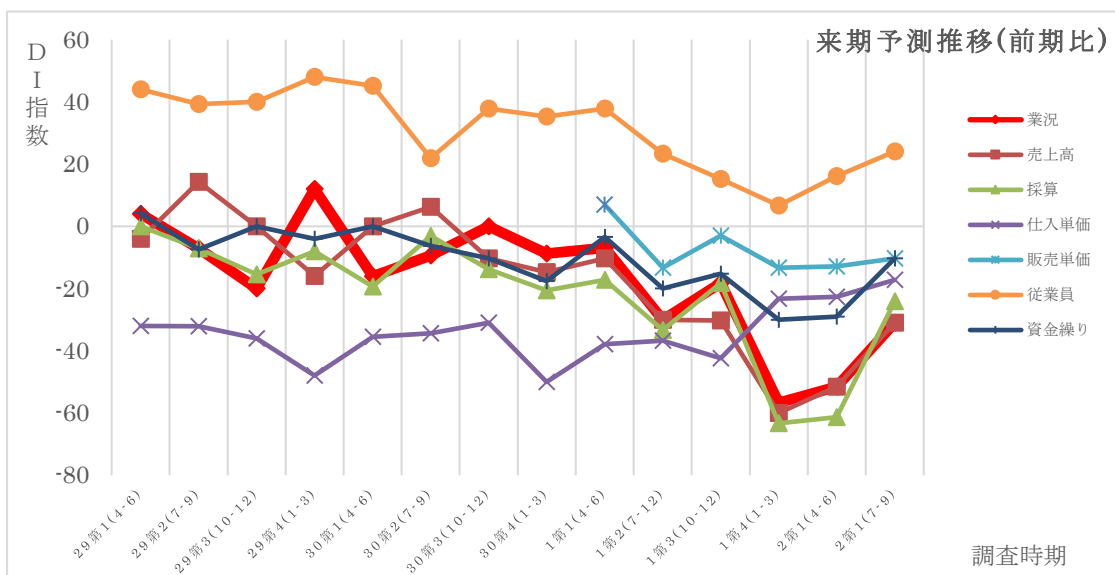
業況は5期ぶりに改善。しかし新型コロナの影響は継続している。

先行きは新型コロナの影響を懸念するも改善を見込む。

業況DI▲51.7(前期比+6.4[°]イト)、売上高DI▲65.5(前期比-4.2[°]イト)、採算DI▲67.9(前期比+12.8[°]イト)、仕入単価DI▲13.8(前期比-10.6[°]イト)、販売単価DI+0(前期比+29.1[°]イト)、従業員DI17.2(前期比+7.5[°]イト)、資金繰りDI▲17.2(前期比+18.2[°]イト)。

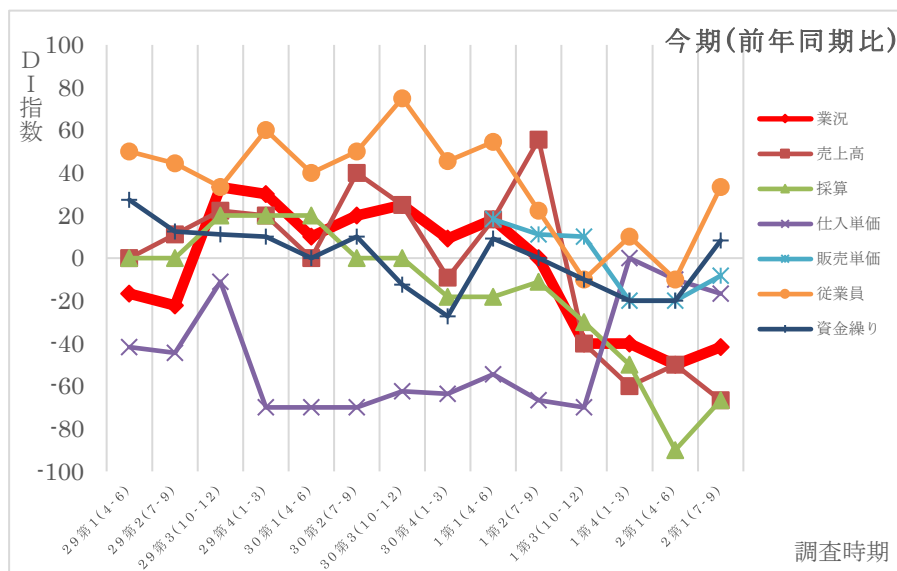
先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲31.0(今期比+20.7[°]イト)。売上高DI▲31.0(今期比+34.5[°]イト)、採算DI▲24.1(今期比+43.7[°]イト)、仕入単価DI▲17.2(今期比-3.4[°]イト)、販売単価DI▲10.3(今期比-10.3[°]イト)、従業員DI24.1(今期比+6.9[°]イト)、資金繰りDI▲10.3(今期比+6.9[°]イト)の結果となった。





5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

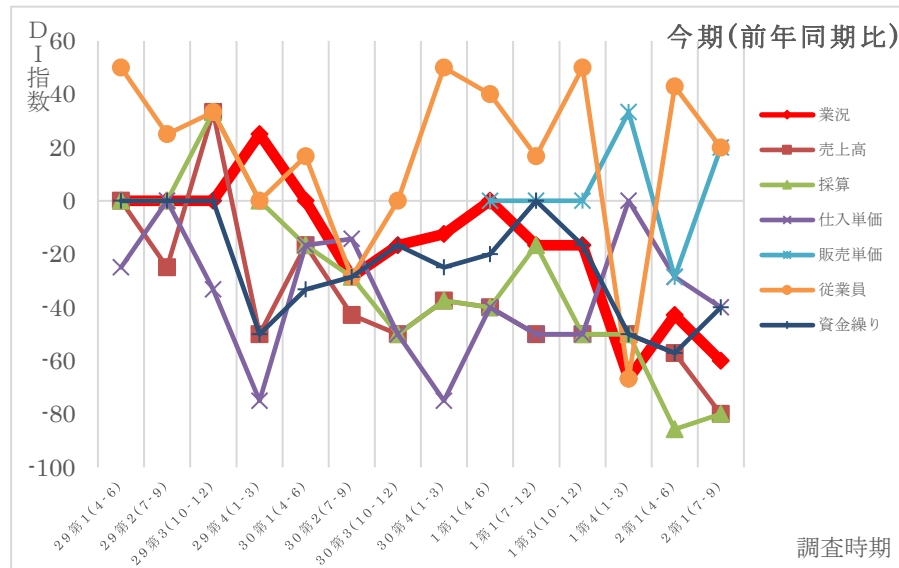
製造業↑ 業況DI▲41.7(前期比+8.3ポイント)。
 売上高DI▲66.7(前期比-16.7ポイント)、採算DI▲66.7(前期比+23.3ポイント)、仕入単価DI▲16.7(前期比-6.7ポイント)、販売単価DI10.0(前期比+0ポイント)、従業員DI▲10.0(前期比+0ポイント)、資金繰りDI▲1.7(前期比+8.3ポイント)。
 先行き(来期)見通し、業況DI▲-16.7(今期比+25.0ポイント)改善を見込。



建設業↓ 業況DI▲60.0(前期比-17.1ポイント)。

売上高DI▲80.0(前期比-22.9ポイント)、採算DI▲80.0(前期比+5.7ポイント)、仕入単価DI▲40.0(前期比-11.4ポイント)、販売単価DI▲20.0(前期比+48.6ポイント)、従業員DI20.0(前期比-22.9ポイント)、資金繰りDI▲40.0(前期比+17.1ポイント)。

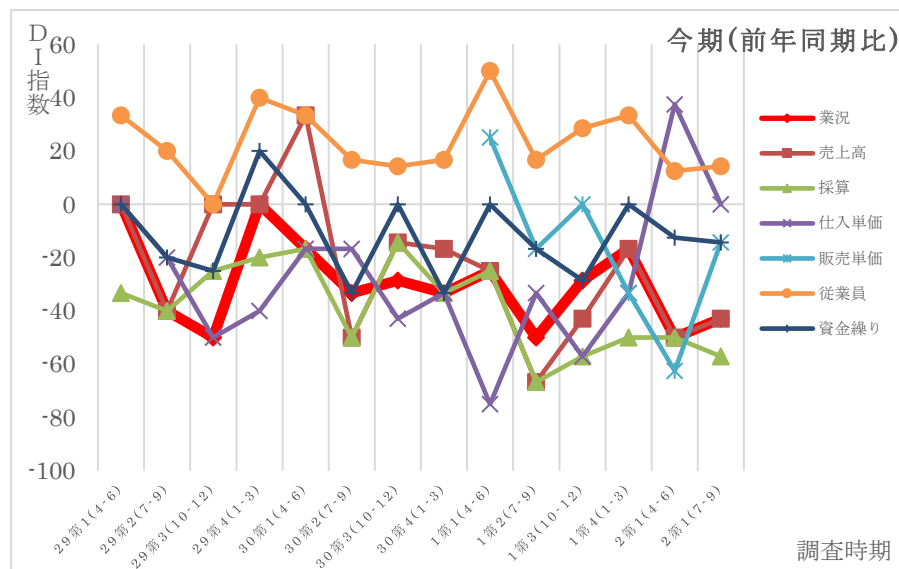
先行き(来期)見通し、業況はDI▲20.0(今期比+40.0ポイント)改善を見込。



卸・小売業↓ 業況DI▲42.9(前期比-17.9ポイント)。

売上高DI▲42.9(前期比+7.1ポイント)、採算DI▲57.1(前期比-7.1ポイント)、仕入単価DI+0(前期比-37.5ポイント)、販売単価DI▲14.3(前期比+48.2ポイント)、従業員DI14.3(前期比+1.8ポイント)、資金繰りDI▲14.3(前期比-1.8ポイント)。

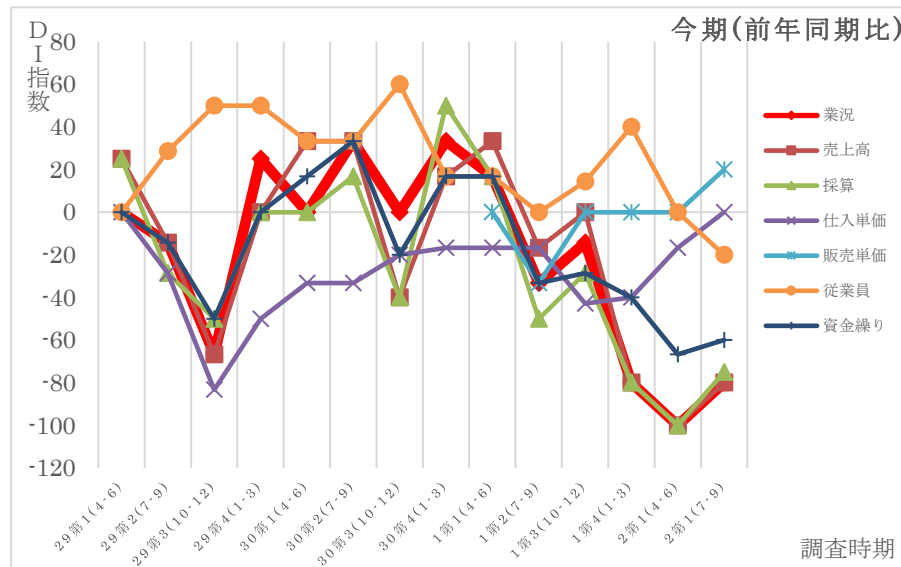
先行き(来期)見通し、業況DI▲57.1(今期比-14.3ポイント)と悪化を見込。



サービス業↑ 業況DI▲80.0(前期比+20.0ポイント)。

売上高DI▲80.0(前期比+20.0ポイント)、採算DI▲75.0(前期比+25.0ポイント)、仕入単価DI0(前期比+16.7ポイント)、販売単価DI20.0(前期比+20.0ポイント)、従業員DI▲20.0(前期比-20.0ポイント)、資金繰りDI▲60.0(前期比+6.7ポイント)。

先行き(来期)見通し、業況DI▲40.0(今期比+40.0ポイント)改善を見込。



【業況感等コメント】

- 新型コロナウイルス感染症への対応も6ヵ月余りを経て落ち着き始め、少しずつ景気も回復へ向かうと想定されるが、企業業績への傷跡の大きさから投資に対する意欲回復には時間を要すると思われる。(製造業)
- 新型コロナの影響により建築着工戸数の落ち込みが大きく売り上げが大幅にダウンし、厳しい状況となっている。また、供給過多による値下げ局面といえ、先行きが不安視される(製造業)
- 新型コロナの影響で海外展開が停滞し、輸出案件に関する交渉が中断した状況にあります。国内の需要案件にシフトして先の受注を確保するよう戦略転換を進めている状況(製造業)
- 新型コロナウイルスの影響で当社製造用部品の入荷遅れが発生し、一部製品について生産調整を実施した(製造業)
- 現場作業の大半を外国人(日系人研修生、実習生)に頼っており、コロナの影響で海外からの入国、研修生の期間満了による帰国ができない。コロナによる雇止め、解雇が全国的に広がっている中でも日本人の雇用が進んでいない。さらには外国人研修生の賃金も上昇している。(製造業)